



公益社団法人

日本語教育学会

2021年度日本語教育学会秋季大会

2021年11月27日（土）・11月28日（日）
オンライン開催

今夏、新型コロナウイルスの感染の拡大防止のための緊急事態宣言下、猛暑と長雨の中でオリンピック、そしてパラリンピックが開催されました。2016年に学会誌『日本語教育』165号の特集「2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催と日本語教育」において展望した「多言語環境の整備、共生社会の進展」や、「国際的文化交流によることばの接触と教育の再考」はさらに根本的に問い直され、新たな価値や行動様式が求められることになりました。私たち日本語教育関係者の環境も一変し、情報管理能力・想像力・対応力、そして社会との創造的な関わり方が求められています。コロナ禍の閉塞感をはね除ける力を私たちはもっていると感じられる瞬間を、日々の暮らしと教育・研究活動の中に見いだしながらお過ごしになっているのではないかと思います。本学会は、皆さんの「力」となることを願って、2021年度秋季大会を開催いたします。

オンラインによる臨時開催は、本大会で3回目となります。この間、大会委員会による検討に加え、別途ワーキンググループ等を組織して学会のオンラインイベントの実施方法について模索を続けてきました。その結果、オンデマンド・ビデオ配信による事前の発表内容の提供、質問の投稿や同期型会議システムによる意見・情報交換を導入し、利便性、双方向性は高まっています。今大会においても、日本語教育に関する研究・実践の成果とメッセージを届け、参加された方が新たな可能性を感じ、挑戦のきっかけを得られる場を提供いたします。オンラインならではの、空間の制約を超えた広角な交流と、そこで生まれる多角的視点による議論を楽しんでください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

最後に、感染された方々やそのご家族の方々に心からお見舞い申し上げます。また、コロナ禍において命と暮らしのために日々奮闘くださっている皆様に、敬意と深い感謝をお伝えしたいと存じます。ありがとうございます。

公益社団法人日本語教育学会会長 齋藤ひろみ

目 次

開催のご挨拶	1
開催概要／目次	2
大会日程	3
一般公開プログラム	4
発表一覧：パネルセッション	5
発表一覧：口頭発表	6
発表一覧：ポスター発表	10
同時開催イベント	12

◆今大会の実施方法について◆

2021 年度日本語教育学会秋季大会は、全面的にオンライン開催となります。

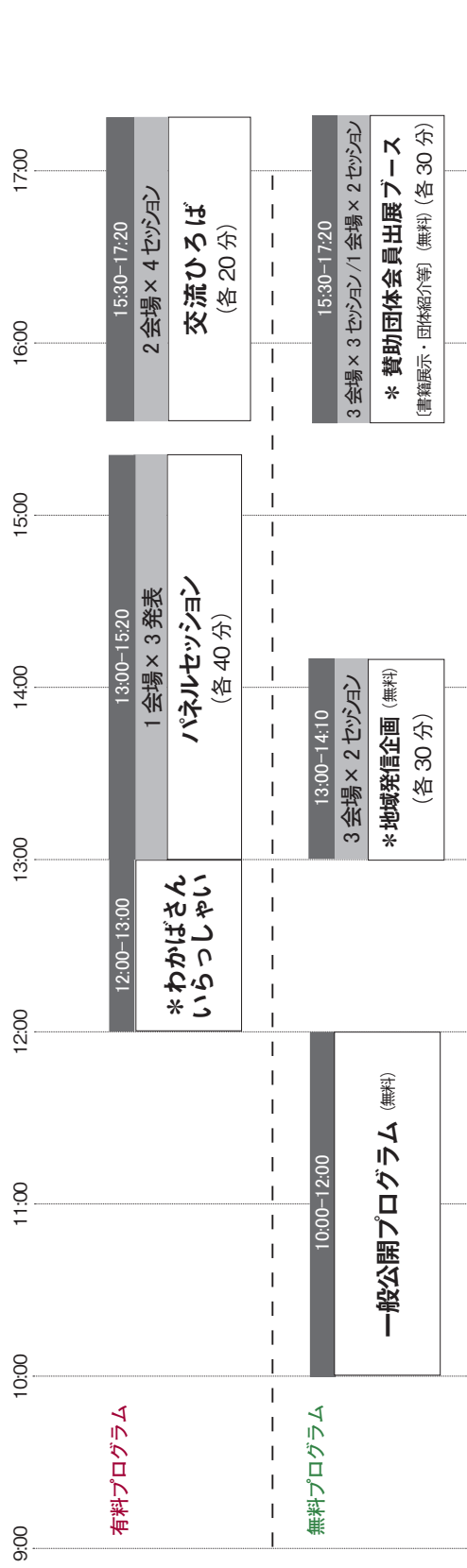
- ・学会発表については、以下の 3 つの方式の組み合わせにて行います。
 - ①事前のオンデマンドによるビデオ配信・資料閲覧：2021 年 11 月 19 日（金）～ 12 月 12 日（日）
（パネルセッション：ビデオ 60 分、口頭発表：ビデオ 20 分、ポスター発表：ポスター掲示）
 - ②事前の指定フォームによる質問受付：2021 年 11 月 19 日（金）～ 11 月 26 日（金）正午
 - ③大会当日の Zoom による同時双方向型の質疑応答：2021 年 11 月 27 日（土）・28 日（日）
（パネルセッション：40 分、口頭発表：20 分、ポスター発表：40 分）
※当日は質疑応答のみで、ビデオ再生の時間は設けておりません。
- ・その他のプログラムの実施方法については、本プログラムおよび学会ウェブサイト「春季大会・秋季大会」のページ（<http://www.nkg.or.jp/jissensha/taikai>）にて、今後公開される告知等をご確認ください。
- ・オンライン開催における有料プログラムへのご参加は、事前参加登録のみとなります（当日受付は行いません）。
- ・無料プログラムへのご参加は、事前申込は不要です。参加方法については、学会ウェブサイトをご参照ください（10 月中旬に詳細を公開予定）。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費（有料プログラム）：
 - 【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】
 - 会員 3,500 円
 - 会員（有効期限付き学生証を提出済みの方）2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】オンライン開催では行いません。
- ◆事前登録期間：2021 年 10 月 16 日（土）～ 11 月 15 日（月）
- ◆問合せ先：
 - E-mail: taikai-office@nkg.or.jp（下記を除く大会に関する問合せ先）
 - nkg.taikai@gmail.com（オンライン参加に関する技術面の問合せ先）
 - TEL: 03-3262-4291

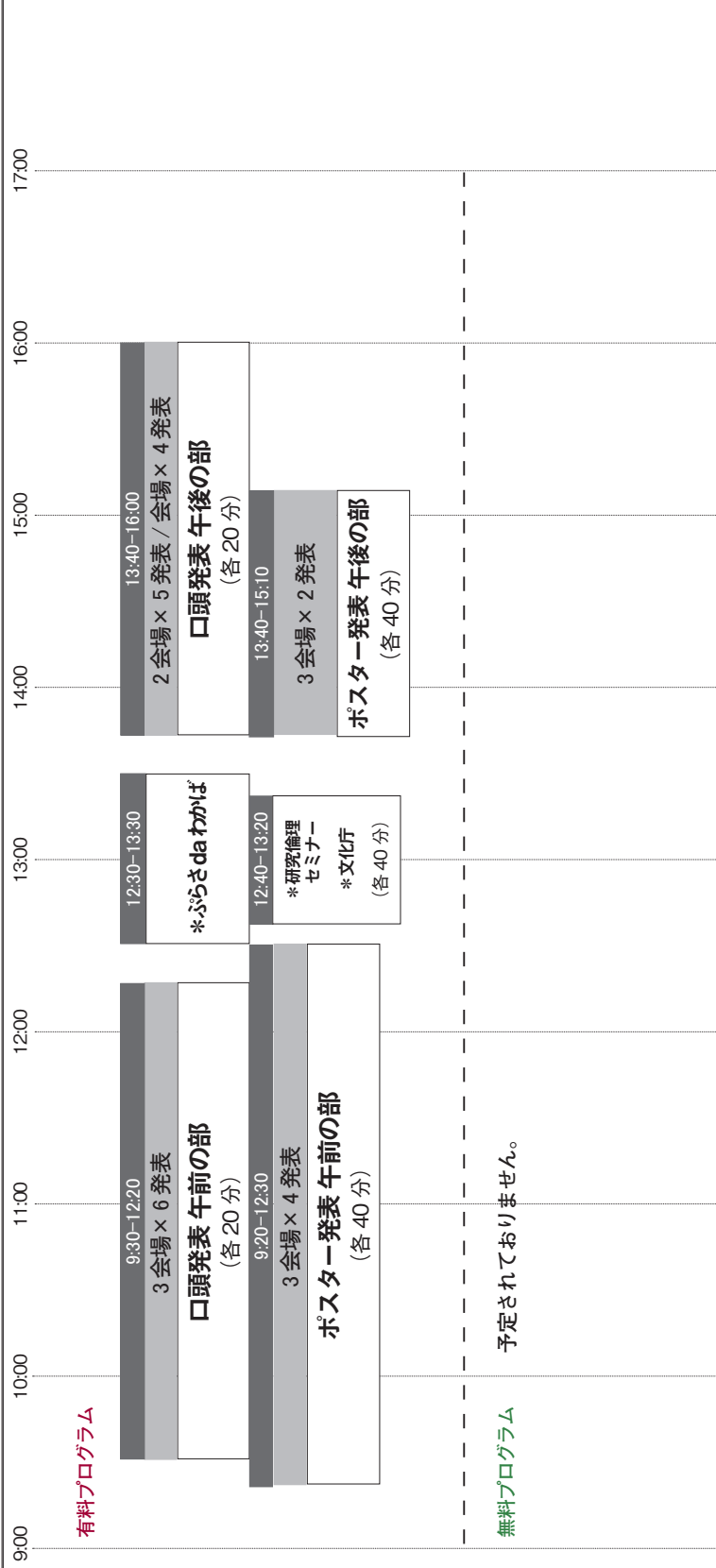
◆大会日程◆

* 印のイベントの概要は、12～19ページをご覧ください。

11月27日 (土)



11月28日 (日)



* 無料でご参加いただけます。

外国人介護労働者のキャリアとことば

11月27日(土) 10:00 ~ 12:00

主催：公益社団法人日本語教育学会 社会啓発委員会

日本では近年、外国人介護労働者が急増しています。EPA（経済連携協定）や外国人技能実習制度など、さまざまな経路で来日した人たちです。本シンポジウムでは、外国人介護労働者の「キャリア」と「ことば」について考えます。外国人介護労働者と、彼女ら／彼らを受け入れた介護施設の当事者の経験を話していただき、キャリア形成の実態や、制度の問題点について議論します。外国人介護労働者を受け入れ、共に生きていくために、市民として何ができるかを考える機会としたいと考えています。

登壇者：

「外国人介護労働者受け入れの仕組み、介護の日本語教育の特徴」
布尾勝一郎（立命館アジア太平洋大学）

「日本で就労・生活・学習した経験」
ティタ・ハルティウイ氏
（社会福祉法人愛里巣福祉会高齢者グループホーム愛蓮 介護職）

「外国人介護労働者を受け入れた経験」
池田光利氏（複合型介護施設／和の郷高岡統括施設長）

「キャリア形成の実態や制度の問題点」
平井辰也氏（EPA 看護師介護福祉士ネットワーク代表）

進行・趣旨説明： 布尾勝一郎（立命館アジア太平洋大学）

本プログラムは、JSPS 科研費 JP21HP0001 の助成を受けたものです。

* 本プログラムは Zoom ウェビナーにて行います。開催近くなりましたら日本語教育学会ウェブサイト等で URL をご案内いたしますので、当日直接オンライン会場にお越しください。事前予約不要、当日先着 1,000 名様とさせていただきます。

パネルセッション—質疑応答—

第1部 [13:00 ~ 13:40 (40分)]

第1会場

①

質的研究を研究する—日本語教育学における質的研究の体系的枠組みの構築を目指して—

香月裕介 (神戸学院大学)
伊藤翼斗 (京都工芸繊維大学)
大河内瞳 (大阪樟蔭女子大学)

第2部 [13:50 ~ 14:30 (40分)]

第1会場

②

ベトナム人日本語教師を対象としたオンライン長期型研修モデルの提案—ベトナムでの協働学習の可能性—

近藤彩 (昭和女子大学)
桑原和子 (フエ大学外国語大学)
神村初美 (ハノイ工業大学)
池田玲子 (鳥取大学)

第3部 [14:40 ~ 15:20 (40分)]

第1会場

③

日本語教育プログラム開発事例の探求—非日本語教師と日本語教師の関わりの観点から—

松下達彦 (東京大学)
札幌寛子 (国際高等専門学校)
鈴木秀明 (目白大学)
徳永あかね (神田外語大学)
大河原尚 (大東文化大学)
ポイクマン総子 (東京大学)

口頭発表—質疑応答—

午前の部 [9:30 ~ 12:20 (各 20 分)]

第 1 会場

司会：

【①～③】 船橋瑞貴 (群馬大学)

【④～⑥】 荒井智子 (文教大学)

9:30 ~ 9:50	<p>① 多文化共修授業における母語話者の意識変容—オンライン上の日本語学習者との関わりから— 横田和子 (広島修道大学)</p>
10:00 ~ 10:20	<p>② 日本語母語話者と非母語話者による, わかりにくいと感じる文の比較—「システム仕様書」を使ったアンケート調査から— 大崎健一 (ドワンゴ)</p>
10:30 ~ 10:50	<p>③ 中国人日本語学習者の意見文における論証 前川孝子 (聖学院大学)</p>
11:00 ~ 11:20	<p>④ 日本の哲学文献を主題とした日本語ライティング教育—前近代の文献を演習形式で学びながら— 山畑倫志 (北海道大学)</p>
11:30 ~ 11:50	<p>⑤ 中国の大学における日本語専攻の学生と教員が抱くライティング学習と教育に関するピルーフ—学生と教員の違いを中心に— 阿部新 (東京外国語大学), 中島祥子 (鹿児島大学) 村岡貴子 (大阪大学)</p>
12:00 ~ 12:20	<p>⑥ 大学で日本語を教える教師が抱えるライティング指導の難しさ—日本語教師養成・研修の具体的検討に向けて— 鎌田美千子 (東京大学), 坪根由香里 (大阪観光大学) 副田恵理子 (藤女子大学), 脇田里子 (同志社大学) 村岡貴子 (大阪大学), 菅谷奈津恵 (東北大学) 松岡洋子 (岩手大学)</p>

第2会場

司会：
【⑦～⑨】横山紀子（昭和女子大学）
【⑩～⑫】陳秀茵（東洋大学）

9:30～9:50

⑦
日本語学習者の接続助詞類における接続形式の規則形成過程—縦断的発話コーパス「C-JAS」の分析から—

佐々木藍子（東京学芸大学大学院連合学校（横浜国立大学配置）大学院生）

10:00～10:20

⑧
縦断的会話データにみるヘッジ表現の習得過程—中間言語語用論の観点からの考察—

堀田智子（東北大学）

10:30～10:50

⑨
中国人中上級日本語学習者のナラティブにおける評価方略の使用実態—出現位置と評価対象を中心に—

陳真（暨南大学）

11:00～11:20

⑩
中国語を母語とする上級学習者は「は」「が」をどう使用しているのか—従属節内の「は」「が」の使用実態と使用意識の調査データを中心に—

中西久実子（京都外国語大学）
張浩然（大連外国語大学）

11:30～11:50

⑪
中国人日本語学習者による副詞「必ず」「きっと」「是非」の誤用分析—中国語の副詞「一定」との類義関係から—

齋藤佳奈（兵庫教育大学大学院研究生）

12:00～12:20

⑫
日本語学習者における「対のある自他動詞」の知識獲得と知識定着の測定—プレテスト・ポストテスト・遅延テストの分析—

沖本与子（一橋大学大学院生）

第3会場

司会：
【⑬～⑮】齋藤伸子（桜美林大学）
【⑯～⑱】小口悠紀子（広島大学）

⑬
失われた国家・ベトナム共和国が残した日本語教育—1970年代のサイゴンからの継承—

平田好（帝京大学）
有田佳代子（新潟大学）

⑭
日本語学習者の「できたこと」の振り返りに対する認識と振り返りの内容の関連についての考察—中国・広東省の高等教育機関での実践と質問紙調査から—

末松大貴（名古屋大学大学院生）

⑮
学習への深いアプローチにつながるLTD基盤型授業—JFL環境における日本語学習者を対象として—

富田郁子（コンケン大学）

⑯
技能実習生の他者との関わりと日本語の位置づけ—ある技能実習生のライフストーリーから—

村田竜樹（名古屋大学大学院生）

⑰
レベル別読解教材コーパスを使った形容詞の意味的特徴の分析—『分類語彙表』を用いて—

劉婧怡（九州大学大学院生）

⑱
日本語読解教材における「自分」の使用特徴—BCCWJとの対照を中心に—

靳夢瑩（九州大学大学院生）

口頭発表—質疑応答—

午後の部 [13:40 ~ 16:00 (各 20 分)]

第 1 会場

司会：

【19~21】中山亜紀子（広島大学）

【22・23】米本和弘（東京医科歯科大学）

13:40 ~ 14:00

⑱

タイ中等日本語教員のキャリア選択と維持を支えたもの—複線径路・等至性アプローチによる4名の分析—

西野藍（国際基督教大学）、八田直美（国際交流基金）
坪根由香里（大阪観光大学）

14:10 ~ 14:30

⑳

留学経験を持つノンネイティブ日本語教師認知の変容プロセスと影響要因—複線径路・等至性アプローチによる可視化を通して—

雍婧（一橋大学大学院生）

14:40 ~ 15:00

㉑

日本語教師教育における相互理解を重視した授業観察の設計と評価

野瀬由季子（関西学院大学）

15:10 ~ 15:30

㉒

初任日本語教師による日本語教師養成講座の学びの捉え方—日本語学校に勤務する非常勤講師へのインタビューの分析—

水野瑛子（名古屋大学大学院生）

15:40 ~ 16:00

㉓

日本語学習支援者に求められる聞く技能の考察

深江新太郎（多文化共生プロジェクト）

第2会場

司会：
 【24～26】 牧原功（群馬大学）
 【27・28】 立川真紀絵（大阪大学）

13:40～14:00

②4
 子に関する共有情報のある談話—日本語母語話者・
 非母語話者養育者の会話構築から—

吉田睦（国際基督教大学）

14:10～14:30

②5
 話し手の発話内容を共有したことを示す聞き手行
 動の分析—雑談データを対象に—

稲飯亜有美（東北大学大学院生）

14:40～15:00

②6
 技能実習生と日本人指導員間の就労現場でのや
 り取りにおけるカテゴリー化の実践—実践共同体へ
 の参加の過程に注目して—

道上史絵（津山工業高等専門学校）

15:10～15:30

②7
 講義のポイントを逃さないためのディスコース
 マーカー—日米講義比較の観点から—

東條加寿子（大阪経済法科大学）

15:40～16:00

②8
 日本企業で働く外国籍社員が必要とする日本語
 —IT技術者を対象としたパイロット調査から—

鈴木綾乃（横浜市立大学）

第3会場

司会：
 【29～32】 金村久美（名古屋経済大学）

②9
 留学生による外国にルーツを持つ児童・生徒オ
 ンライン学習支援—持続可能な支援をめざして—

古川智樹（関西大学）

③0
 日本語指導が必要な児童の音韻認識と書字力を
 高める教育プログラム

大塚香奈（筑波大学大学院生）

③1
 ベトナム人上級日本語学習者における漢越音の
 知識と日本語漢字単語の処理過程

長野真澄（岡山大学）

③2
 異なる言語を持つ日本語学習者の長音の知覚の
 相違

劉永亮（東京都立大学）

ポスター発表—質疑応答—

第1会場

午前の部 [9:20 ~ 12:30 (各 40 分)]

9:20 ~ 10:00

①

コロナ禍を経て更新された日本語教員の役割観
—「お世話係」、境界性を持った存在、そして教員として—

松本明香 (東京立正短期大学)

10:10 ~ 10:50

②

海外派遣教師はどのようにコロナ禍での活動に向き合っていくのか—ロシア派遣教師の場合—

神代寿美枝 (横浜国立大学大学院生)

中川愛理 (フリーランス)

大政美南 (東京学芸大学大学院生)

11:00 ~ 11:40

③

日本で就労・生活している人たちの「生の声」を聞くインタビュー活動—「特定技能制度による来日希望者のための日本語教授法研修」における試み—

菊岡由夏 (国際交流基金)

築島史恵 (東京国際外語学院)

山本実佳 (国際交流基金), 岩本雅子 (同)

11:50 ~ 12:30

④

ビジネス現場で日本語教育プログラムの受注時に求められる日本語教師の資質

ボイクマン総子 (東京大学)

札野寛子 (国際高等専門学校)

徳永あかね (神田外語大学), 大河原尚 (大東文化大学)

鈴木秀明 (目白大学), 松下達彦 (東京大学)

午後の部 [13:40 ~ 15:10 (各 40 分)]

13:40 ~ 14:20

⑬

複合和製英語データベースの構築と応用

呉梅 (明治大学大学院生)

14:30 ~ 15:10

⑭

アニメに用いられる日本語—スクリプト分析による語彙的・文法的特徴の抽出の試み—

山本裕子 (愛知淑徳大学)

小川満梨奈 (愛知淑徳大学大学院生)

第2会場

9:20 ~ 10:00

⑤

作文評価のための教師用ルーブリックの作成と試用

伊集院郁子 (東京外国語大学), 李在鎬 (早稲田大学)
小森和子 (明治大学), 高野愛子 (大東文化大学)
野口裕之 (名古屋大学名誉教授)

⑥

当該発表は、発表者の都合により中止となりました。

⑦

オンライン講座を活用した日本語発音学習の効果検証

戸田貴子 (早稲田大学)
大久保雅子 (東京大学)
千仙永 (同)

⑧

理系大学院留学生を対象とした初級日本語のコースデザインと教材開発—アカデミックな環境での日常生活で求められるコミュニケーション場面に着目して—

深川美帆 (金沢大学), 高嶋智美 (同)
多胡夏純 (金沢龍谷高等学校), 筒井昌子 (金沢大学)

⑮

中国人日本語学習者による句読点の捉え方—文末の句点を中心に—

劉梅竹 (京都外国語大学大学院生)

⑯

日中接触場面の話し合いにおける「不同意」のストラテジー—「事実に対する不同意」と「提案に対する不同意」に注目して—

袁姝 (東京外国語大学大学院生)

第3会場

⑨

外国人集住地域における南米ルーツの子どもたちの〈聴く〉力

伊澤明香 (大阪経済法科大学)
井村美穂 (子どもの国)

⑩

外国にルーツを持つ子どもの学習支援—三田市の子どもへの調査からみえる現状と課題—

柳川瀬真衣 (関西学院大学大学院生)

⑪

ベトナム人初級学習者を対象とした内容言語統合型学習 (CLIL) の試み—オンラインによる総合日本語授業の実践から—

神村初美 (ハノイ工業大学)

⑫

初級クラスにおける CLIL (内容言語統合型学習) 要素を取り入れた授業の試み

山田真弓 (東京都立大学)

⑰

国際共修クラスにおける葛藤が不満につながるか否かの分岐点—受講生の否定的語りの有無による比較検討—

藤美帆 (広島修道大学)

⑱

双方向型の伝達場面におけるやさしい日本語の—考察—文法外のやさしさに着目して—

堀美宇 (岩手大学大学院生)

わかばさんいらっしやい

[11月27日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが初めて大会に参加するときは、「学会って、どんなところなんだろう?」「どんな人が参加してるんだろう?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。そんなわかばさんをお迎えし、サポートするのが本イベントです。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で、大会のしくみや聞く発表の選び方、大会の楽しみ方などをご説明します。大会当日は動画の内容について簡単に質疑応答を行なった後、「わかばさん交流会」を開催し、わかばさん同士でお話しできる場も用意しています。新しい出会いがあると大会はきつともっと楽しくなり、また大会終了後もネットワークはどんどん広がっていくでしょう。参加希望の方は、大会参加手続きを済ませてから、本イベント専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんわかばさんのご参加をお待ちしています。

地域発信企画

* 無料でご参加いただけます。

「つながり、広がる日本語教育

—北陸地域における多様な連携・協働のカタチ—」

[11月27日(土) 13:00 ~ 14:10]

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

地域発信企画は、日本語教育学会秋季大会の開催地を対象地域としながら、その地域の日本語教育の様々な取り組みや成果を全国に発信することを目的に開催されます。本年度は、複数の団体・組織・機関などが連携・協働して、地域で学び、働く日本語を母語としない人への教育・支援をテーマとしました。今後、ますます多様化が進む社会においてさまざまな課題を解決するには、日本語教育の分野にとどまらず、様々な分野との連携・協働も必要になってくるのではないのでしょうか。異なる分野との連携・協働は、時に難しさを伴いますが、この企画では、北陸地域（福井、石川、富山、新潟）において、行政、教育機関をはじめとするさまざまな団体と連携・協働して地域の日本語教育・支援に取り組んでいる6つの展示をご紹介します。昨年度に続きオンライン開催であることから、北陸地域での実践紹介にとどまらず、地域や国を超えて、意見交換、情報交換ができる場になることを期待しています。ぜひご参加ください。

* 事前申込は不要です。参加方法は10月中旬に学会ウェブサイトでご公開予定です。

* 出展の詳細は、16ページをご覧ください。

賛助団体会員出展ブース * 無料でご参加いただけます。

[11月27日(土) 15:30 ~ 17:20]

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、このうち「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO団体等、50団体が入会しています。(2021年9月現在)

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。当日の双方向型オンラインセッションのほか、オンデマンドによるビデオ配信、資料配信も行っておりますので、ぜひご覧ください。

* 事前申込は不要です。参加方法は10月中旬に学会ウェブサイトにて公開予定です。

* 出展の詳細は、17ページをご覧ください。

交流ひろば

[11月27日(土) 15:30 ~ 17:20]

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

2017年度に新たに事業を始めた支部活動委員会では、「人をつなぎ、社会を作る」という理念体系に掲げられた使命と「日本語教育の情報交流を促進する」という事業方針を実現するために、秋季大会でも「交流ひろば」を開催します。

「交流ひろば」では、出展者の教育実践や研究の紹介・共有、そして参加者との情報・意見交換が行われます。審査を経た発表ではありませんが、出展を通して同じ興味や問題意識を持つ者同士がネットワークを拡げることが目的とした企画です。

本大会では、日本語教材の作成、日本語と社会・文化に関する教育実践、日本語教師が直面する現場での課題やスキルをテーマとして取り上げた多様な取り組みが紹介されます。実践的取り組みの共有を通して、活発な交流が生まれることを期待しています。ぜひ、事前配信資料をご覧ください。意見・情報交換に参加してみてください。

* 実施方法は、学会発表と同様です(2ページ参照)。

* 出展の詳細は、18・19ページをご覧ください。

ぶらさ da わかば

[11月28日(日) 12:30 ~ 13:30]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

この学会に集うだれもが最初は「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持つことができれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。とは言え、自分から「センパイ」に話しかけることはなかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のための企画が「ぶらさ da わかば」です。少人数(1~3人)で1人の「センパイ」を囲み、気楽に話すチャンスです。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、「センパイ」の経験談を聞いたり、普段なかなか出会う機会のない「センパイ」と自由に対話を試してみませんか。今大会も「ぶらさ da わかば」は、ZOOMのブレイクアウト機能を使用し、オンラインで実施します。参加希望の方は大会参加申し込み後、「ぶらさ da わかば」にお申し込みください。定員は20名程度、先着順です。詳しい申し込み方法や「センパイ」のプロフィールはチラシまたは学会ウェブサイトをご覧ください。

研究倫理セミナー： 研究とその指導に必須の注意事項

[11月28日(日) 12:40 ~ 13:20]

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

昨今の研究倫理に関する問題意識を共有し、日本語教育学の一層の進展に資するため、調査研究の際に留意すべき研究倫理や学生指導の際の留意点について会員の意識化を促すことを目的とした企画です。オンデマンドによる本セミナーは研究編と指導編の2つの動画で構成されています。

まず、研究編では調査研究のためのデータ収集、学会発表、論文作成・投稿などにおける研究倫理について情報提供します。次に、指導編では学部・大学院生の指導者の立場にある教員が指導の際に留意すべき点、ハラスメントが起こる危険性などについて問題提起します。

当日は、これらの情報提供をもとに研究倫理、および、学生指導の際の留意点について、参加者全体で意見交換を行います。具体的な事例を紹介しながら議論する予定ですので、論文や研究発表を考える学生さん、日本語現職教員の皆さんのほか、学部・大学院生の指導者の方々などの積極的なご参加をお待ちしています。

*実施方法は、学会発表と同様です(2ページ参照)。

日本語学習サイト 「つながるひろがる にほんごでのくらし」(通称: つなひろ) 説明会

〔11月28日(日) 12:40～13:20〕

主催：文化庁

つなひろは、「生活者としての外国人」を対象に作成された日本語学習サイトです。生活に根差した内容を提供することを目的とし、生活の場面から28テーマ(あいさつ, 買い物等)を選定しました。約90の動画を中心に基本的な言語知識を学べる構成にしています。学習項目は動画中から抽出し、生活でよく使うフレーズや言葉を学べます。また、動画中に使用される文型を解説する動画も収録しました。気軽に学べるよう、無料、1回完結型で、IDやパスワードが不要な設計にしています。

初めて日本語を学ぶ人のために多言語版として10言語(英語, 中国語(簡体字), スペイン語, ポルトガル語, ベトナム語, インドネシア語, フィリピン語, ネパール語, クメール(カンボジア)語)を用意し、今後は計14言語まで追加予定です。

また、令和2年6月の公開以来、令和3年3月に10場面の追加、令和3年7～8月に機能や広報ツールの追加を行い、今後も充実を図ります。

今後も広く活用いただけるよう御説明したいと思います。

*実施方法は、学会発表と同様です(2ページ参照)。

つながり，広がる日本語教育
—北陸地域における多様な連携・協働のカタチ—

第1部 [13:00 ~ 13:30 (30分)]

第1会場

① LINEを使った多言語防災情報の発信

【小松市国際交流協会／村上洋子氏】

第2会場

② 民間日本語教育機関が自治体，地域の市民と連携・協働して構築した地域日本語教育の在り方

【トヤマ・ヤポニカ／高畠智美氏】

第3会場

③ 外国ルーツの子ども支援と国際理解教育の連携に向けて

【公益財団法人新潟県国際交流協会／福永綾氏】

第2部 [13:40 ~ 14:10 (30分)]

第1会場

④ 在住外国人向け防災セミナー「ぼうさいのほんご」の試み

【敬和学園大学・新発田市市民まちづくり支援課／木林理恵氏・坂田佑貴氏】

第2会場

⑤ 病院との密な連携をもとにした対話中心の地域日本語教室の可能性

【日本語教室 in 黒部／家城香織氏】

第3会場

⑥ 日本語学校と地元高校との連携交流

【福井ランゲージアカデミー／鉾田裕子氏・星摩美氏】

* 事前申込は不要です。参加方法は10月中旬に学会ウェブサイトにて公開予定です。

第1部 [15:30 ~ 16:00]

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場
カシオ計算機 株式会社	公益社団法人 国際日本語 普及協会	株式会社 ジャパンタイムズ 出版	株式会社 アスク出版

第2部 [16:10 ~ 16:40]

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場
一般社団法人 Global8	株式会社 ワールドینگ	株式会社 三修社	株式会社 くろしお出版

第3部 [16:50 ~ 17:20]

第1会場	第2会場	第3会場
株式会社 インターカルト 日本語学校	一般財団法人 日本国際協力 センター	株式会社 ひつじ書房

動画・資料配信のみ

有限会社 J リサーチ出版 株式会社大修館書店 公益財団法人日本漢字能力検定協会 株式会社ラーンズ
--

動画配信のみ

株式会社凡人社

資料配信のみ

株式会社アークアカデミー 株式会社研究社 国書刊行会／国書日本語学校 株式会社スリーエーネットワーク

* 事前申込は不要です。参加方法は10月中旬に学会ウェブサイトで公開予定です。

第1部【15:30～15:50】

<第1会場>

①多読学習材に語彙リストは不要か？

吉川達 (佐賀大学)
佐々木良造 (静岡大学)
門倉正美 (横浜国立大学名誉教授)

私たちは「たどくのひろば (<http://tadoku.info>)」というウェブサイトで、多読用の読み物(多読学習材)を無料で公開しています。各作品には現在語彙リストや語の意味表示機能は付けていませんが、今回、試作として簡易的に本文中の語の意味を参照できる機能を付しました。本出展では、多読学習材に語の意味表示機能は必要か、意味表示機能が有益だとしたら、どのような形式で、どのような語の意味を示すのがよいかをみなさんと意見交換したいと思います。

<第2会場>

②体験型オンライン伝統文化コース「茶道 A1 自習コース」

—その特徴と教育現場における活用方法について—

中尾有岐 (国際交流基金関西国際センター)
北口信幸 (同)

「茶道入門 A1 自習コース」は2021年7月に「JFにほんご e ラーニング みなと」で開講したコースです。茶道のお点前の情報だけでなく、茶会の疑似体験や、亭主のおもてなしの心など茶道で大切にされている精神を味わい、自己表現する体験を採り入れました。当日はコース内容を紹介し、みなさんの教育現場に合わせてどのように活用できるかアイデアを交換したいと思います。

第2部【16:00～16:20】

<第1会場>

③日本語学習者の学習上の躓きと教員の対応・支援について考える

武田知子 (国際基督教大学)
澁川晶 (同)
保坂明香 (同)

私たちは、認知的特性により日本語学習で躓く学習者への支援について研究をしています。どうしたら学習者の学習困難が解消できるのか、教室で試行錯誤を繰り返している先生方と、日頃の実践について情報交換をしたいと考えています。よろしくをお願いします。

<第2会場>

④実践授業「ことばと戦争」

—戦時下の日本語から新たな言語観を育む試み—

萩原秀樹 (インターカルト日本語学校)

戦争、と聞くと避けてしまいがち。私もそうでした。でも学習者の反応は抜群かつ真剣。戦争に関する授業を様々な角度から続けていて、その一つが本実践です。先行きが不透明な何かと不穏な昨今、クリティカルにことばと社会を見つめ、よりよい生を生きるために、学習者同様私たち教える側もことばとは何か、共に見直せたらと思います。

第3部【16:30～16:50】

<第1会場>

⑤日本語教師に必要な学びとは

—教師としての地力を涵養する—

伊藤奈津美 (早稲田大学), 佐藤茉奈花 (東京外国語大学大学院生)
鈴木綾乃 (横浜市立大学), 徳田淳子 (東京中央日本語学院)
藤田百子 (早稲田大学)

私たち「ももの会」は、「いつかやりたい」「やらなくちゃ」と思っていた日本語教育にかかわる理論や隣接領域について勉強会を始めたグループです。明日の授業には直接役に立たないかもしれませんが、基礎体力がつけられる場にすることを目指しています。日本語教師としての地力を涵養するためにどのようなことを学んでいけばいいのか、皆さんと議論できたらと思います。

<第2会場>

⑥初級日本語学習者を対象にしたオンライン国際交流会の実践報告

安原凜 (環太平洋大学)
尹帥 (同)
滝麻衣 (IPU New Zealand)

コロナ禍だからこそできる取り組みはないかと考え、留学生別科の学生と姉妹校であるIPU ニュージーランドで日本語を学ぶ学生との初のオンライン国際交流会を開催しました。みなさんには交流会の内容、学生の成果物や、交流会後のアンケート結果を共有します。現場の違う方々とながら、共に課題解決のために考える場にしたいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

第4部【17:00～17:20】

<第1会場>

⑦質問分類表に基づいて質問しあってみよう

—OPI形式のコーパスの分析に基づいて—

堀恵子 (東洋大学), 安高紀子 (明治大学)
大隅紀子 (東京大学), ケッチャム千香子 (上智大学)
長松谷有紀 (桜美林大学), 長谷川由香 (法政大学)

質問力を高めることを目的とし、インタビュー形式で口頭能力を測定するACTFL-OPIの質問を機能別に分類し、言語形式の例も載せた分類表を作成しました。教育への応用を考えるために、ワークショップ形式で、ペアで質問しあい、分類表を参照しない場合と参照する場合による違いについて考え、自由に意見交換をしたいと思います。

<第2会場>

⑧多言語教材としての創作デジタル絵本

—外国につながる家族のエピソードをもとに—

滑川恵理子 (京都女子大学)

地域の支援教室を拠点に、外国につながる家族のエピソードを聞き取り、オリジナルの他言語絵本(日本語と母語の二言語版)を制作しました。ホームページでデジタル絵本として公開しています。当事者自身の「物語」や、母語・継承語学習に関心をおもちのみなさんと、意見交換および情報交換をしたいと考えています。